

競技の運営

【競技会場】

競技会場には下記の席、コーナーを設置することが標準である。下記に示した各席は、競技場フロアーに設置する場合と、観客席に設置する場合、競技フロアー外施設が考えられる。会場の状況によって決定される。レイアウトの例を別に示す。

競技をするにあたっては、下記の施設、設備、備品必要である。

【競技場】

【コート】

公式競技を開催する際のコートは、競技規則書（以下、規則書）に従って正規の整備されたコートを使用する。現時点、本協会で公認しているコートとは、屋内体育館コート、屋外コートがある。基本的には、屋内体育館で使用するコートを標準とする。

コートは 40m × 20m である。（規則 1 の 1）（コートについては規則を参照）。観客席は資料として添付した。図：競技場・観客席を参照のこと。）

コートとゴールに関するガイドラインは、規則に示されている。

ジュニアのコートの長さは別に定める。

【安全地帯】

コートの周辺は安全確保を図るために安全地帯を設ける。安全地帯としてサイドラインに沿って外側に最低 1 m、アウターゴールラインの外側に最低 2 m が必要である（規則 1 の 1）。本協会では 2 m を標準とする。競技場によってはスペースの関係から 1.5 m 以下も容認される。

安全地帯の外側、すなわち、サイドラインから 1 m、アウターゴールラインから 2 m の位置に広告ボード、フェンスを立てることが一般的である。カメラマン席はこのボードの後方に設置しなければならない。

上記については国際大会では厳守されている。しかし、国体では会場によっては、安全地帯を制限以下で実施していることがある。また、高校等の体育館で、フロア上部（2 階の窓を開けるための通路）は消防関係から許可が出ないことがある。状況によって上部団体と協議の上、実施すること。決して事故を起こしてはならない。

【コートフロアー】

コートの表面は、プレーヤーが安全にプレーできるものでなければならない。IHF は商品名の「タラフレックス」、「スポーツコート」その他を公認している。現在、日本ハンドボール協会に「スポーツコート」1 面があり、希望団体に有償で貸与している。詳細は、日本ハンドボール協会事務局に問い合わせること。「タラフレックス」は大阪府堺市が所有する 1 面がある。このコートも有償で貸与している。

東京にあるナショナルトレーニングセンターは、タラフレックスとモンドフレックスが設営されている。

【ライン】

各ラインは適正に引かなければならない。ゴールラインの幅は 8cm、その他のラインの

幅は5cmである。(規則1の2)

各エリアのラインの引く方法は、規則1の3から1の9、及び、コートとゴールに関するガイドラインに示してある(規則)。

ラインはゴールラインの8cmを除き、5cm幅のラインテープを使用してコート内の各区分をしているが、コート内で隣接する領域を区画するラインの代わりに、隣接する領域の床の色を変える方法も可能である。また、シールを貼ることによって区分することも可能である。

【ゴール】

ゴールは本協会の検定品を用いなければならない(規則1の2)。検定業者を表に示す。規則に示されている2色は、一般的に赤×白が望ましい。外国では黒×白、青×白がある。情報ではヨーロッパでも赤×白が多いということである。検定証はゴールポスト後方、または側方に貼付してある。検定品業者一覧は別に示す。

なお、各会場の特色を出すために、ゴールの2色を変えることは許容される。

ゴールの検定品は 型、 型がある。競技用具検定規程参照。

ゴールは床面に固定されていなければならない。固定具はボルトでゴール下方と床を直接結ぶものがよい。ボルトで固定できない場合はマット、おもりなどを用い、少々力では動かないように固定するべきである。ゴールキーパーが守備の際ゴールポストにふれることで動いたり、シューターがシュート後にゴールポスト、またはネットにふれてゴールが転倒することがあるので十分な注意が必要である。

競技に使用しない間の保管には、転倒防止、不正な使用による事故等、十分な配慮が求められる。平成16年2月、関係団体理事長宛に「ゴール等競技用具の安全管理について(通知)」を出した。その後も、継続して安全を呼びかけているところである。例として、ボルトで床と固定をする、グラウンドと基部の間に杭を打つ、横に寝かして管理する、前後部のバー及び上部の金属部にぶら下がる指示を徹底する、ゴールネットで遊ばない、競技用具本来の使用の目的以外に利用しない等の具体策を以て、ゴール等競技用具による事故が起こらないように安全対策の再確認をすること。

ゴールを購入後の管理にも注意を払わなければならない。保管管理の状態により一概にいえませんが、金属部分の腐食、ボルト・ナットの欠損等による事故も未然に防がなければならない。大会競技責任者は以上の点を十分考慮した上で、検定証が貼付されたゴールを



使用しなければならない。

【ゴールネット】

ゴールネットは本協会の検定品を用いなければならない。検定証はネットに貼付してある。検定品業者一覧は協会ホームページを参照のこと。



【キャッチネット】

ゴール内のネットにキャッチネット(跳ね返り防止ネット)を取り付けなければならない(規則1の2)。競技用具検定規程参照。現状はキャッチネットを使用しないで競技をしている事例が多い。今後、ネット業者に対して、ネット及びキャッチネットを一对にして販売するよう要請する。



【ゴール後方ネット】

ボールが遠方に行かないように、また跳ね返ることで片方のチームが有利にならないように、アウターゴールラインの後方にネットを設置する。ネットは安全地帯の外側2m(1.5m)の位置から最大5mに設置する。図：競技場・観客席参照



ネットを設置出来ない場合は、他のもので代用する。代用品としてあげられるものとして、マット、卓球台、卓球フェンス等があげられる。

ネットを固定するロープについては、ロープと壁面が完全に固定していることが望ましいが、施設の状況により許可されれば手すり等に結索することも一つの方法である。

【交代地域】

交代地域はセンターラインから各チームのベンチの外側端までの後方をいう。ウォーミングアップはベンチ後方の交代地域で、ボールを用いないで行うことが出来る。交代地域内でのボールの使用は禁止される。競技開始前に、全てのボールは収納されていなければならない。



清涼飲料水を入れるボックスが設置される場合は、その外側端までを交代地域とする。

交代地域内での通信機器類の使用は禁止



する（通知参照）。

競技規則書に示されている、交代地域規程を遵守する（図：競技場・観客席参照）。

【ベンチ】

大会で規定された大会エントリー数である選手数のいす、チーム役員数のいすを配置する。IHFの役員からは長いいすを置くよう指示を受けた。個別のいすは選手が列を乱したり、倒したりすることから長いベンチが進められる。

ベンチはセンターラインから 3.5 m の位置に置き、サイドラインより 1m 離してサイドラインに沿って並べる。

【松ヤニボックス】

松ヤニボックスを設置する場合、記録席とベンチの間に設置するが、プレーヤーの交代に支障がないよう配慮する。コート内から交代する選手が勢いよく駆け込み、邪魔になる事例が見受けられる。交代でじゃまになると判断される場合は後方にずらすことが必要である。

世界で開催されているIHFの大会では、置かれていない。国際大会では松ヤニボックスを設置しても利用しないチーム（国）がある。

【得点板】

電光掲示板が望ましい。会場全体で見えるように大型装置が望ましい。コート内の選手、交代地域の控え選手、記録席員、観客が十分見えなければならない。時間表示は0から30分になる加算式を用いなければならない（規則2の3）。



移動式が多いが、壁面に備え付けられている得点表示板の多くは、退場者表示板と連動していない。時間の計測に若干の違いは出るが、大きく変わらないように注意して運用する。

参考までに海外の電光得点板、選手リスト表示板を掲載した。国内でもこのような表示板がある施設の設定が望まれる。

【退場者電光表示板】

退場者がでた場合に退場時間を表示する電光退場者表示板を設置することが望ましい。準備できなければ、記録席に卓上退場者表示板を準備し、選手背番号と入場時間を記入した用紙に記入し掲示する。

国際大会、大きな会場を使用する全国大会に、本協会が所有している大型退場者電光表示板を貸し出しする制度がある。希望団体は協会事務局まで問い合わせをして頂きたい。

【モップ係席】

体育館コートの場合、選手の汗でフロアーが滑りやすくなる。競技を円滑に進めるために、モップ係を配置しなければならない。コート表面が塗れた場合、レフェリーの指示の元、速やかにふけるよう準備する。国際規則では、レフェリーの指示がなければコート内に立ち入ることはできないが、各大会の申し合わせ事項により、競技に影響のない場合はモップ係の作業ができるようにすべきである。



選手等が出血し、その血がコート上についたときは、感染予防のため、通常のモップ、雑巾で拭いてはならない。モップ係または専任係は、直接血に触れないように、ゴム手袋を着用しなければならない。一度使用したゴム手袋、雑巾はその都度廃棄のための袋に入れ、感染予防の処置をした後、廃棄しなければならない。

【レッドカード席】

大会でドーピング検査を実施する場合は、レッドカード席を設ける。その場合、失格、追放の選手はコート外周に用意した、レッドカード席に着席していなければならない。管理はアンチ・ドーピング・コントロール班が行う。試合終了後、ドーピング検査の対象者となる。



【通訳席】

国際試合の場合、通訳を置くことができる。通訳席はベンチの後方に置く。通訳をすることが主業務となる。通訳以外のものの立ち入りを、制限しなければならない。

国内の試合では不要である。設置してはならない。

【臨時トレーナー席】

原則として、チーム役員は、日本ハンドボール協会に登録されていなければならない。しかし、トレーナーが派遣役員等で、登録締め切り日までに氏名を特定できないことがある。その場合は、交代地域の外側に臨時トレーナー席を用意し、選手が負傷した場合その場所で応急手当をすることを認める。そのトレーナーは、交代地域やコート内に立ち入ることはできない。マッチバイザーは、応急手当の際の管理をする。この臨時トレーナー席に立ち入ることの出来る該



当者は、トレーナー等の資格を有していなければならない。

【記録員席】

記録員席、マッチバイザー席を図に示す。記録席は 6 名分のスペースを用意する。記録員の数は大別、習熟の度合いによって異なってよい。通常、記録席の両端にテクニカルデレゲート（TDと呼ぶ。）2名。タイムキーパー 1名、スコアラー 1名、退場者電光表示板係 1名、の 5名で構成する。IHF、AHFはアンチドーピングコントロール関係の医事委員、放送係も含め6名としている。

記録席はサイドラインとセンターラインの交わるところに、サイドラインから 50cm 以上離して設営する（規則図参照）。サイドラインに対して記録席は競技場内を見渡せるように、選手ベンチの列よりも前方に位置していなければならない。

マッチバイザー（オフィシャル）



T D タイムキーパー スコアラー T D

【記録席の備品】

試合時間計測装置（電光公示時計）、電光掲示時計がない場合はコートから見ることのできる卓上時計、笛 3 個、ストップウォッチ 3 個、公式記録用紙、イエローカード、レッドカード、退場者電光表示板操作盤、チームタイムアウト請求板（グリーンカード）およびそのスタンド、チーム役員用 A B C D カード、メモ用紙、筆記用具等を用意する。



【記録用紙】

記録用紙は本協会制定品を使用しなければならない。試合終了後、短時間で集計し、確認のサインをした後、各チームに配布する（公式記録用紙記入説明及びオフィシャルの任務手順参照）。

【マッチバイザー席】

本年度はマッチバイザー席と称する。IHFではこの席に座る人をオフィシャルと呼ぶ。

マッチバイザー席はコート全体が見えるように、記録席後方上位に一段あげて設置することが望ましい。80cm以上の高さが望ましい(図：競技場・観客席参照)。競技中、不測の事態が発生した場合、マッチバイザーが状況の説明をすることがある。放送設備が必要となる。

【放送席】

放送席はコート全体が見えるように、マッチバイザー席の隣にあることが望ましい。

隣に設置できないときは連携できる範囲が望ましい(図：競技場・観客席参照)。放送席からコート全体が見通せず、得点時の選手の放送がしづらいときは、マッチバイザー、記録席員と連携を図り、円滑に業務が遂行されなければならない。場所的には放送席よりマッチバイザー席の設置が優先される。



【国際大会放送原稿】

例を示す。必ずしもこの原稿に限定しない。

<試合開始 分前> 観客へのあいさつのアナウンスメント

・ Ladies and gentlemen, welcome to () Championship.)
・ Now we are making preparation for the () match between the () place of Group A Team () and the () place of Group B team (). Please wait a little..

<オープニングセレモニー>

・ Before the () match between the () place of Group A Team () and the () place of Group B Team (), I ' m going to introduce the players and team officials of this match.

・ First team ().
Player No.(), (Name). No.()
Team officials, Team Leader/ Head Coach / Coach/ Assistant Coach / Doctor

・ Next team ().

(最初の選手紹介と同じ要領で、名前は世界で1つしかないものです、他のセリフよりも大切です。スムーズにいえるように、詰まることのないように大変ですが練習しましょう)

・ Now I ' m going to introduce you the referees and match visor of this match.

・ The referees are () and () from (国名)

・ Match visors are () from (国名) , () from(国名).

・ Now we are going to listen to the national anthem. Please stand up and look at the national flags.

- First ().
- Next ().
- Thank you for your cooperation. Before the match starts, please wait a little, thank you.

<試合中のアナウンスメント> 流れに応じて

- 得点の後
初めての得点
The first goal ' s scored by the player No.(), < 名前 >, (国名).
普通の得点
(入れたほうの得点) , the goal ' s scored by the player No.(), ()
7M スローの得点
This 7m throw ' s scored by the player No.()< >,().
- チームタイムアウトが請求された
The Team Time Out is requested by the Team ().
- 7 M スローが与えられた
The 7 meter throw is given to team ().
- 罰則が与えられた
警告
Warning for the player No.(), ,() the team official (国名).
退場
2 minutes suspension for the player No.(),(). the team official ().
失格
3 回目の退場の場合
2 minutes suspension for three times and disqualification for the player No.(), ().
- 一発失格の場合
Disqualification for the player No.(),(). the team official ()
追放の場合
Exclusion for the player No.()< >,().
- 前半終了
First half is finished by the score, (得点) (国名)and (得点)、(国名).
Now we have a half time brake for ten minutes, please wait for the second half.
Thank you.

【医務席】

医務席を設置する。医師、看護師がいる。担架は会場内に必ず準備しなければならない。担架は緊急事態に備え配置してあるという状態だけでなく、常に稼働できるよう準備しなければならない。実際に誰がどのようにして搬送するか決めておき、さらに、搬送の訓練

もする必要がある。



【大会役員席】

大会、競技会場の状況によって配置が換わるが、一般的には交代地域と反対側の、サイドラインに沿ってテーブル、いすを準備する。

【審判団席】

一団となって着座できるコーナーを設置するべきである。

【控え審判員席】

コート付近に配置するべきである。競技会場の状況によって配置する。競技規則上は審判員に事故がある場合に交代することとなっている。

【報道関係記者席】

大会役員席の片側を報道関係記者席として確保することを標準とする。大会役員席より見やすい席を提供するべきである。

【報道カメラマンコーナー】

アウトゴールライン後方にカメラマンコーナーを設置する。ボードがある場合はその後方とする。ボードを設置しない場合は、指定ラインテープ等を張り区分する。一般的には、コート対角にモップ係が配置され、その対角に退場者電光表示板が設置される。これらの業務に支障がないように、また、表示が隠れることのないような配慮が求められる。

【観客席】

一般観客席、チーム応援席、団体席等区分することが望ましい。仮設席を設置する場合は、安全確保に十分な配慮が求められる。可能であれば、選手、レフェリーとの導線と観客の導線は交わらないよう配慮するべきである。特に、雨天時は、雨による影響で会場内が水で濡れることが多く、安全に配慮するべきである。

応援の方法は各チーム、団体の意志に任されてよいが、ハンドボールの品位を落とさないような協力を求める。

【貴賓席】

皇族、政官公庁関係者、外交官関係者、日本オリンピック委員会・日本体育協会等ハンドボール協会関係者等をさすが、状況に合わせて区分する。

皇族の行幸啓がある場合は、宮内庁、皇宮警察、関係警察官公署と打ち合わせを綿密にする。貴賓室、貴賓席の場所設定は一般観客との距離を置くよう計画する。

【VIP・招待者席】

前項と同様、状況に合わせて区分する。

【日本協会OB席】

競技フロアーに立ち入る必要がない関係者のための席を設ける。

【がんばれハンドボール20万人会席】

グランド会員には原則としてフロアー席を用意し、パンフレットを渡す。

ハンドボールを支援している「がんばれハンドボール20万人会」の会員のための席は観客席に設置し、優遇されなければならない。

【選手席】

国際大会では、参加国(チーム)が一同となって観戦できる席を設けなければならない。会場によって設置の仕方は異なって良い。観客席の一部を選手席に当てたことや、ゴール裏を選手席にあてたこともあった。有料席を設けた際は、有料一般観客を優先させて良い。

【日本代表チーム家族席】

2003年9月に開催された、アテネオリンピックハンドボール競技アジア予選兵庫・神戸大会でこの席が設けられた。非常に好評であったことから、今後の国際大会で日本代表が出場する試合では、観客席にこのコーナーを設置することを標準とする。

【天井の高さ】

天井の高さは最低7mとする。この天井とは照明設備の際下端を意味する。その他、付帯設備がある場合もその最下端が最低7mなければならない。

【コートフロアー表面の照度】

コートフロアー表面の照度は最低800ルクス以上とする。照度計を用いて測定する。カーテン等を開放して測定した場合は、競技時も開放して行わなければならない。すなわち、競技を行う上で必要な照度を意味する。

【更衣室】

競技会場には更衣室を用意しなければならない。大会にもよるが、試合数に応じて最低2更衣室が必要である。試合終了まで当該チームが1つの更衣室を使えるようにするべきである。2試合ある場合は4室必要となる。特に、国際試合ではハーフタイムのミーティングに更衣室を使用する事例が多い。コートから更衣室までの導線に断点を作らないよう配慮するべきである。

更衣室には試合終了後、直ちにシャワーが使用できることが望ましい。

国内の試合では、現状に則し更衣室の数は限定しない。

【審判員控え室・更衣室】

審判員控え室・更衣室、審判用シャワー室が必要である。試合がない時間帯の審判員の休憩場所として準備する。国際大会では、軽食の用意が求められる。レフェリーとプレーヤーが接触することなく更衣、シャワーが使えるようにするべきである。女子レフェリーのための配慮も必要となる

【アンチドーピングコントロール室】

アンチドーピングコントロール室には下記のものが必要となる。

- a) 採尿室
- b) ウェイティング室
- c) 受付室

準備する備品

- a) アンチドーピングコントロールに必要な備品
- b) ポータブルトイレ
- c) 冷蔵庫
- d) その他

【競技時間】

競技時間は下記の通りとする。(規則2の1、2の2)

成年・高校生 前半 30分 - (ハーフタイム 10分) - 後半 30分

中学生 前半 25分 - (ハーフタイム 10分) - 後半 25分

小学生 前半 20分 - (ハーフタイム 10分) - 後半 20分

第1延長 前半 5分 - (ハーフタイム 1分) - 後半 5分
(5分休憩の後)

第2延長 前半 5分 - (ハーフタイム 1分) - 後半 5分
(5分休憩の後)

【ボール】

ボールは本協会の検定品を用いなければならない(規則1の3)。ボールの表面に検定証紙が貼付してある。新品を購入の際、検定証が貼付されていなかった場合は、日本協会競技運営部まで連絡すること。検定業者は協会ホームページ参照のこと。

各試合には、大会競技委員会が2個以上のボールを用意する。ボールの規格は以下の通りである(規則)3の3)。

(男子)成年・高校生

JHA 3号球 外周 58 ~ 60cm、重さ 425g ~ 475g

(女子)成年・高校生・(男女)中学生

JHA 2号球 外周 54 ~ 56cm、重さ 325g ~ 375g

(男女)小学生

JHA 1号球 外周 49.5 ~ 50.5cm、重さ 255g ~ 280g

(ミニハンドボール)

ミニハンドボール用のボールについては規定していない。

【ボールの空気圧】

ボールの空気圧は下記の通りとする。IHFは空気圧の数値を発表していない。日本協会はボールの円を確保するために（選手は握りやすい空気圧を求めることからボールが円になっておらず、イレギュラーバウンドすることがある）数値を定めた。

数値の基準となったのは、ボールメーカーであるヨーロッパアディダス、AHF役員の提言を参考にした。

夏季はボール内の空気が膨張し、空気圧が高くなる。試合当日の朝測定しても、昼までには数値の上昇が顕著に見られる。試合開始前には測定しなければならない。

成年（一般L、一般A、学生、リージョナル）

320 ± 20 ヘクトパスカル（300 ~ 340 ヘクトパスカル）

少年（高校生、中学生、小学生）

300 ± 20 ヘクトパスカル（280 ~ 320 ヘクトパスカル）

その他のボールは少年に準ずる

【ボールの空気圧計】

空気圧計はデジタル式のものを用いる。本協会競技運営部がマスターゲージを持つ。各団体は日本協会に準拠した上で、マスターゲージを持つ。各団体は競技会前に使用球を正確に測定する。

【ユニホーム】

同じチームのコートプレイヤーは、全員同じユニホームを着用しなければならない。両チームのユニホームの配色とデザインは、互いにはっきりと区別できるものでなければならない。ゴールキーパーとして出場するプレイヤーは、両チームのコートプレイヤーや相手チームのゴールキーパーと、はっきりと判別できる色のユニホームを着用しなければならない。（規則4の7）

色的には両チームのコートプレイヤー2色、両チームのゴールキーパーで2色、さらに、残りのゴールキーパーが別の色を使うことも考えられる。コート内では最低4色があるということである。通常、前の試合のハーフタイムに行われるレフェリーによるユニホームの確認が行われる。規則で示されているように、黒（レフェリーのための色）が使用されなければ4色で試合は成立する。

同じ色のユニホームの場合、調整がつかない場合は、チーム番号の大きいチームが変更することとする（IHFルールと同様である。）

プレイヤーは縦が20cm以上の背番号と、10cm以上の胸番号をシャツに付けなければならない。番号の色は、シャツの色やデザインとはっきり対比できなければならない（規則4の8）。この「はっきり対比できなければならない」という事項に反してユニホームを使用するチームが多い傾向にある。競技運営部は毅然としてこれらのユニホームを排除する方針であるので、各チームがユニホームを新調する場合には最大限の注意を払ってほしい。例をあげれば、汗をかき、濡れることによってユニホームの地の色と背番号が同じ色

に見えるものをさす。

日本ハンドボール協会競技運営部、または、各団体競技運営部は、ユニホームの規程に反していると判断した場合、当該チームに対して改善勧告書を示し改善を要請しなければならない。

プレーヤーが出血したことによって、身体やユニホームに血液が付着している場合は、止血するためにコート外にでなければならない。また、血液が付着しているユニホームは交換しなければならない(規則 4 の 10)。これらの処置が終わるまではコート内にもどれず、さらに出場しようとするればスポーツマンシップに反する行為として罰せられる(規則 4 の 10)。

ユニホームに関する細則を設け、ユニホームにつける広告について規定している(ユニホーム広告に関する細則参照)。

国民体育大会では、ユニホームに広告をつけることは禁止されている。国民体育大会については別項目を参照のこと。

【屋外コートにおけるポイントシューズの使用について】

屋外コートにおけるポイントシューズの使用許可について、一部加盟団体の競技において、ポイントシューズの使用に関し、外足から見てポイントが見えないように外側部に覆いがあるシューズのみの使用を許可していた。グラウンドが痛むことが禁止の理由であったようであるが、試験結果によると外側部の有無はほとんど影響がないことが明らかになった。よって、平成 15 年 4 月より、グラウンドにおける公式試合において、ハンドボールシューズと表記して販売されてすべてのポイントシューズの使用を認める。外側部に覆いがあるなしの有無を問わない。ただし、ポイントの長さは 6.5 mmまでとする。類似形のアメリカンフットボール等のポイントシューズの使用は認めない。

【交代地域における携帯電話・通信機器の使用禁止について】

競技中、交代地域での携帯電話・通信機器の使用による競技面の情報交換を禁止する。

元来、交代地域にはチーム役員 4 名、選手 14 名までが立ち入ることが許されており、その他の人が立ち入ることは厳格な制限がある。競技規則書の趣旨を理解し、スポーツマンシップに則り競技を行う事を目的として禁止する。本件に違反した罰則は交代地域規程、スポーツマンシップに反する行為として対処する。

【メンバー表の提出】

出場者リストおよび登録証は、各試合前に各チーム代表者が審判員、マッチバイザーに提出する。第 1 試合の提出は、試合開始 30 分前(I H F ルールでは 1 時間前)とし、第 2 試合以降は、前の試合の前半終了直後に提出する。

【トス】

トスは、試合開始前、記録席前で行う。第1試合のトスは、試合開始30分前(I H F ルールでは16分前。)とし、第2試合以降は、前の試合の前半終了直後に行う。トスは、チームを代表する選手、もしくはチーム役員が行う。試合開始前にトスが行われることから、スローオフ直前のサイドチェンジはない。トスは競技開始前に審判員が行うものであるが、問題が生じたときにはマッチバイザーが助言・勧告する。



【公式記録用紙への転記】

試合開始10分前に、各チームの責任者が公式記録用紙に転記された選手、チーム役員の記入が正しいものであるかを確認し、確認の署名をする。マッチバイザーは、チーム責任者が署名することを管理する。チーム役員が、AからDの区分で記入されているかを確認する。スコアラーが記載後、複数回のチェックがなされるが、それでも誤記載、ご記入はあり得る。最終的に、誤記載、記入漏れの責任は、確認を怠ったチーム責任者にある。

一方、誤記載、誤記入が判明した場合、適正な状況から再開する。原則として、特に罰則は適用しない。

同様に、競技中、誤った判定、判断で競技が行われ、途中でその判定、判断が誤っていたことが判明した場合、その時点で適正な処置をし、競技を再開する。選手、チーム役員にその責を負わせることはない。

【試合直前の選手の交代】

平成21年度から、試合開始前に負傷した選手が出た場合、試合開始10分前までは交代することができる(I H F ルールでも10分前までは交代できる。)こととした。ただし、大会エントリーとゲームエントリーが同数の大会の場合は、交代する選手が存在しないので、交代はできない。

【ハーフタイムのコートの使用】

国内の競技の現状から、次の試合のためのウォーミングアップ会場が準備できない場合は、ハーフタイムは次の試合のチームのために開放する。各大会で代表者会議で通知する。国際試合は、ハーフタイムはその試合のチームが使用する。日本リーグもハーフタイムはその試合の両チームが使用する。

【試合中のコート周辺】

ハーフタイム、もしくは試合終了近くなると、次に試合のチームの選手がフロアに入りウォーミングアップをしたり、試合を見ていることがある。基本的には選手、役員は試合終了まで競技場に立ち入るべきではない。

同様の事例として、競技場内に入り、ボールを使用することも許される行為ではない。

【身体に装着する器具・装置について】

選手の安全を図るために、許可される器具・装置、許可されない器具・装置がある。

【ピアス・ネックレス】

ピアス等は、イヤリングや突起のない指輪と同類のものとして位置づけられ、他の選手に危害を及ぼさないように、テーピング等で覆わなければならない。



許可

禁止

【膝等の用具】

従来通り、膝等に装着するサポーターで、金属部が附属するものについては、全て金属部分を覆い、選手本人、相手選手が安全にプレーできるような配慮がなされていなければ、競技における装着は認められない。

【顔面のプロテクター】

顔面マスクは、ゴールキーパーの顔の表情が明確に見えるもので、危険でないと判断できるものは許可する（IHFルールではいかなる素材であっても許可されない）。日本国内の試合では、GKの眼部及びその付近の受傷保護の観点から申告制とし、顔の表情が読み取れる透明の顔面マスクの使用を認める。代表者会議の席上、申告を受け、大会競技委員長が許可する。

【会場の雰囲気づくり】

ハンドボールを観戦して楽しく、さらには魅力的に観戦できる雰囲気作りを心がけたい。一例として、チームタイムアウトの際に、BGMを流すとか、ハーフタイムショーを企画することがあげられる。

また、選手によるサイン会、写真撮影会などの企画を取り入れ、積極的にハンドボールが一般愛好者と密接なつながりをもてるよう試みをしたい。